広報
のぼりべつ

主な内容

■ 赤鬼がお出迎かえ　装いを一新、登別駅前広場 ■ 待望の〝市民センター〟建設へ　第3回臨時市議会……2P
■ みんなで創ろう、わが街〝のぼりべつ〟　第7回登別市民まつり……3P
■ 考えて見よう親と子で　老人福祉週間…4・5P
■ 郷土史探訪㊿　中央町……6P
■ 暮らしの中の法律相談（保証人）……7P

●No. 322 ●昭和56年9月1日発行　●発行／北海道登別市●編集／総務部企画広報課●印刷／中西印刷

ていねいな仕事が好評

登別市高齢者事業団

「仕事をもつと張りもできるし、健康にもいいですよ」と、庭木のせん定に励む佐藤昌一さん（71歳美園町）。永年の経験を生かした仕上がりが喜ばれています。

高齢者の豊かな経験と能力を社会に生かすとともに、生きがいづくりや健康増進、さらにある程度の収入を確保してもらおうと、六月に「登別市高齢者事業団」が発足、七月一日から業務を開始して、二カ月が経過しました。

会員は百四十余りになり、これまで、庭木のせん定や除草、大工仕事を中心に四十一件、延べ百七十七日分の求人に応じていますが、ていねいな仕事ぶりが大変好評です。

同事業団では、「管理や事務の仕事が少ないので、みなさんからもっともっと注文していただいて、お年寄りの生きがいの場として、ますます発展させていきたい。」と話しています。

お問い合わせは、同事業団事務局（Ⅲ⑤2111内線327）へ。

9.1 1981

●世帯と人口　世帯／18,222　人口／57,711　（前月比＋119）　男／28,762　女／28,949　（7月末現在）

赤鬼がお出迎かえ

装いを一新、登別駅前広場

東洋一を誇る登別温泉の玄関口にふさわしい駅前広場を―と、市では登別駅前の周辺整備事業を進めていましたが、このほどロータリー広場やシェルター、案内板が完成しました。八月十八日、関係者の手で喜びの完成式が行なわれ、新しい駅前のスタートを祝いました。

登別駅は、登別温泉が本格的な保養観光地として、行楽客や湯治客を多く迎えるようになった明治二十五年に開業され、昭和十年、急増する観光客を受け入れるため銘石〝登別石〟をふんだんに使った現在の石造り一部二階建てに建て替えられました。

最近は、自家用車の普及などによって、国鉄の利用者は年々減る傾向にありますが、登別駅は、年間約九十万人の乗降客があり、登別温泉やカルルス温泉の玄関口として道内でも有数の観光駅となっています。

しかし、これまでの駅前は、昭和三十七年に造成したアスファルトの広場（約二千平方メートル）があるだけで、観光地の駅前としては、あまりにも殺風景でした。

このため市では、千五百万円の事業費をかけて、今年七月から登別駅前の周辺整備事業を進めていたものです。

完成したロータリー広場は、十メートル四方で高さ七十五センチの石垣が積まれ、中央には高さ十メートルもあるカツラ（樹齢百年）の木が登別市の発展を象徴するようにそびえ立っています。その周りには、アカマツ、ツツジ、サツキ、ハイマツなどが植えられ、正面には、登別温泉のシンボルである高さ二・五メートル、重さ六百キロの巨大な赤鬼がすえられ、訪れる人々の目をひいています。

また駅の乗降口には、幅三メートル、長さ二十五メートルのシェルター（上屋）が色どりもあざやかに設けられ、バスやタクシーを待つ市民のみなさんや観光客に役立っています。

駅を降りた右側には、登別温泉街を中心に、東は樽前山、西は洞爺湖まで描いた横五・四メートル縦四・五メートルの大きな観光案内板を設け、訪ずれる観光客をあたたかく迎えています。

装いを一新した駅前広場は、早くも観光客の大好評を得ており、市ではこの駅前広場が、最近伸び悩んでいる観光客入り込み増大の起爆剤になることを期待しています。

早くも好評をよんでいる観光案内板

待望の〝市民センター〟建設へ

第三回 臨時市議会

昭和五十六年第三回臨時市議会が、八月二十一日に開催されました。

この臨時市議会では、市民センター新築工事の請負契約など議案三件と、前線と台風による大雨災害状況の行政報告一件について審議され、全案件が可決または承認されました。

それでは主な内容についてお知らせします。

早期完成を目指して

待望の〝市民センター〟がいよいよ建設されます。

議決された請負契約は、本年度分の建築主体工事費三億円となっています。

この工事は基礎とコンクリート工事がおもなものとなっています。

市民センター建設事業は、三ケ年計画で進めていますが、早期完成の期待もあることから市では一日も早く利用できるよう、二ケ年完成を目指しています。完成後は、市内随一の文化施設として、文化活動を始め各種の公演など幅広い活用が期待されます。

このほか、鷲別中学校分校新築工事の請負契約が可決されました。

これは、二ケ年継続事業で建設が進められ、総事業費七億七千百万円、建築工事費五億七千四百万円で建設されます。

大雨による被害状況を報告

報告では、八月三日から六日及び八日、九日にかけての前線と、台風十二号による大雨災害の状況が報告されました。

被害状況は、床上浸水が富浦地区を中心に十二戸、床下浸水が三十二戸にのぼり、八月十二日現在の被害総額は、住家被害、土木等被害など三億六千五百二十三万三千円となっています。

また、災害対策にともなう一般会計補正予算四千八百万円が可決されました。

お題は「橋」

＝昭和五十七年歌会始め＝

昭和五十七年の初春を飾る宮中行事、歌会始のお題が「橋」と定められました。

●詠進歌の詠進要領

㈠ 詠進歌は、自作の歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。

㈡ 用紙は、半紙とし、毛筆で自書してください。

㈢ 病気又は身体障害のため毛筆で自書することができない場合には、代筆でも差し支えありませんが、すべてその理由書を添えてください。なお、盲人の方は、点字で詠進しても差し支えありません。

㈣ 書式は、半紙を二つ折りにし、開いて右半面にお題と歌、左半面に郵便番号、住所、氏名（本名ふりがなつき）、生年月日、職業を書いてください。

●詠進の期限

10月12日まで。郵送の場合は、消印が10月12日までのものが有効です。

●送付先

〒100東京都千代田区千代田一番一号 宮内庁とし封筒に「詠進歌」と書き添える。

※詳しくは、市教育委員会社会教育課へおたずねください。（☎5局2111内線349）

第7回登別市民まつり

みんなで創ろう わが街“のぼりべつ”

と き　9月13日(日) AM10:00～PM6:30

ところ　幌別駅西口前広場

市内の各種祭典のしめくくりともいうべき「第七回登別市民まつり」が、初秋の9月13日（日）盛りだくさんのプログラムで盛大に繰り広げられます。

この市民まつりは、郷土のまちづくりに人と人との和・心のかよいあう催しとして市民の間に定着し、今年で七回目を迎えました。

今回は、登別青年会議所のみなさんが中心となり、市民が自由に参加できるようにと、会場も第五回市民まつりで大好評を博した幌別駅西口前で行なわれることになりました。

今回のテーマは〝みんなで創ろうわが街のぼりべつ〟の合言葉のもとに、市民総参加のなかで郷土意識を高め、人と人との連帯を肌で感じながら、理屈ぬきでまつりを楽しもうというものです。

会場には、市民まつり実行委員会のみなさんが企画した盛りだくさんの行事が計画されています。

緑日コーナー、催し物コーナーでの不用品バザールやチャレンジギネス大会、メインステージでの各種コンサート、商工会館での公開討論会、そして今年十月に完成し、来年四月に開校が予定されている日本工学院北海道専門学校の現地見学会など、一日いっぱい楽しめる行事が目白おしとなっています。

また、幌別小学校グランドでは国際障害者年記念行事として、9月12日と13日の2日間、ミニSLが良い子の夢を乗せて走ることになっています。

市民まつりは、参加してはじめて意義のあるものとなります。全市民が気軽に行事に参加し、市民ぐるみ初秋のひとときを心ゆくまで楽しみましょう。

第7回 登別市民まつりプログラム

緑　日

飲食店	10:00～17:00	市内飲食店によるラーメン、やきとり、から揚げなどの販売
売店	〃	日用品などの販売。
展示会	〃	生きがい焼などの展示。
ガラクタ市	〃	市内各町内会による不用品バザール。

催　物

さよなら銀河鉄道999	11:00～17:00	走ってから3年……さよならチビッ子達！
ハンマーストライカー	10:00～17:30	西部の町にきた君の力は？
テント寄席	11:00～11:45 14:00～14:45	桜井長一郎、柳亭ら久楽などによる登別初の寄席。
チャレンジギネス大会	10:30～17:00	ギネスブックにのっている記録に、君も挑戦しないか！
三輪車レース大会	〃	三輪車によるレース、いかに展開するか？
ルービックキューブ大会	〃	現代の遊びルービック・キューブ、君は何秒か？

ステージショー

オープニングセレモニー	10:00～10:30	華やかに開会式。
郷土芸能	10:30～12:00	新しく誕生した熊舞い、鉱山獅子舞い、その他の出演。
キッパーズショー	12:00～13:00 15:00～16:00	新しいリズムが会場内に響き渡る。
ヤングフレッシュコンサート	13:00～15:00	市内外のヤンググループによる、HBC公開放送。

講　演

公開討論会	14:00～17:00	「みんなで創ろうわが街〝のぼりべつ、中心街はどうあるべきか」をテーマに、講演の後、出席市民による公開討論会。

見学会

西口駅前発	①10：30 ②13：00 ③15：00	日本工学院現地見学、郷土資料館見学(無料)……所要時間1時間30分。

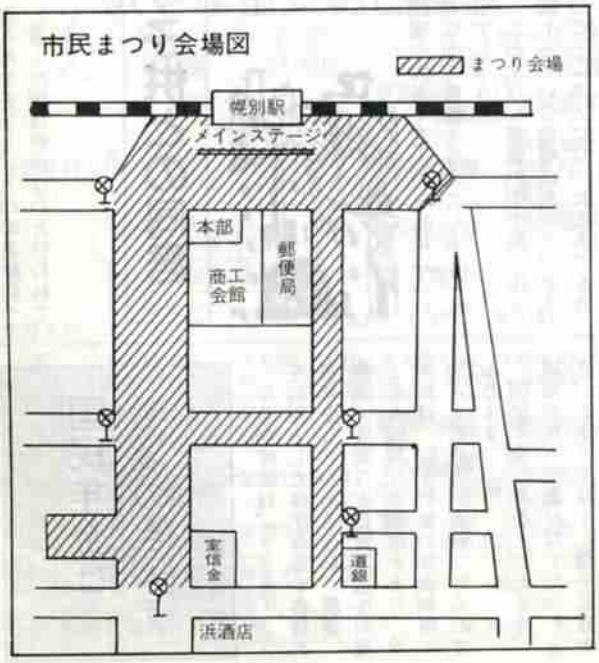
市民おどり

鬼大群舞	17:30～18:30	フィナーレとして、百太鼓の中、仮装大会をも含む鬼踊りを行なう。

ミニSL運行 <国際障害者年記念行事>

9月12日 9月13日	13：00～16：00 10：00～15：00	幌別小学校グランドに、SLの雄姿がよみがえります。(雨天の場合は中止します)

市民まつり会場図



考えてみよう親と子で

老人福祉週間

九月十五日は敬老の日ですが、この日から老人福祉週間が始まります。

市では「安心して暮らせる社会福祉づくり」を目指しいろいろな事業をしています。老人福祉週間にちなんで今月号では老人を取りまくいろいろな環境についてスポットを当ててみました。

伸びる平均寿命

男…73・32歳
女…78・83歳

老齢人口は医学の進歩や公衆衛生、食生活の向上などによって増加しています。

日本の平均寿命も男七三・三二歳、女七八・八三歳（55年度厚生省発表）と諸外国と肩をならべるまでになっています。

市内の老齢人口（六十五歳以上）を調べてみますと、昭和四十五年（国勢調査）は二、〇六三名から、昭和五十五年では約二倍の三、九八六名と、総人口の伸びとくらべ著しい増加傾向を示していることがわかります。このような傾向は全国的なものとなっていますが、諸外国では長年にわたり比較的ゆるやかに増加してきているのに、日本のように二〇年程度の間に急激な増加を示し、人口の老齢化へと進んだ国は例がないといわれています。

希望は高い……子供との同居

親の老後の生活責任は子供にあるとする扶養意識は若い人ほど少なくなり、老人でも最近では扶養意識が減少する傾向となっているようです。

また、その反面、老人扶養の義務を社会化しようとする考えが現われていることも見逃せないこととなっています。

しかし、老人が子供と同居したいという希望は、外国とくらべかなり高いことが調査されていますが、子供の側で同居、別居という問題が大きく老人の生活にいろいろな面で影響を与えているといえるでしょう。

このような背景の中で長く住み親しんでいる地域にあって、老人のこと（老人になったとき）を考えるとき慣れ親しんだ環境を切り離して考えることはできません。

その意味で地域に根ざしたみなさんが主体となった福祉活動を、一つひとつ芽生えさせることが必要となるでしょう。

従来の老人福祉は施設をつくることが主流となっていますが、施設だけではごく一部しか、カバーしきれないのが現実で、残りの大多数の老人はさまざまの生活障害を抱えながら地域のなかで生活しているといえるでしょう。

老人一人ひとりの欲求は量的にも質的にも同じとはいえません。とくに今日の経済社会のめまぐるしい変化が生みだす多様な欲求はとうてい市政だけでは解決できません。ここに市民主体の発想を基礎として市政や専門家が援助、協力し、さらに地域ではともに生きるみなさんが、互いに支えあいながら生れる福祉をいかに創造していくか、このことが今日の課題といえるでしょう。

国民年金は老後のささえ

年金制度には、サラリーマンを対象とした厚生年金や各種共済年金などがあるほか、農業、漁業、商業など自営業者を対象とした国民年金制度があり、全国民は、いずれかの年金制度に加入することが義務づけられております。

国民年金は年をとったとき、病気やケガで働けなくなったとき、ご主人をなくし母子家庭となったとき、両親が亡くなり遺児になったというようなときに、一定の年金を支給する制度です。

加入対象者は、二十歳以上六十歳未満までの人で、農業や漁業に従事している人、商店主など自営業に従事している人は必ず加入しなければなりません。

また、サラリーマンの奥さんや、他の年金制度の年金受給者とその奥さんは希望により加入することができます。

年金額は、消費者物価の変動に応じて自動的に改定されることになっておりますので、将来、年金額の価値が減価して、生活に役立たないというような心配はありません。

将来の生活設計には、まず、国民年金への加入を加え、安心と安全のよりどころとしてください。

加入の申し込みは、各支所または、市役所国民年金係で簡単に手続きができます。

お年寄りのための主な予算

- 敬老年金など……26,590千円
- カルルスへの1日湯治……4,452千円
- 老人クラブへの助成……5,545千円
- 老人福祉センター庭園の造成など……18,336千円
- 老人医療費への助成……268,700千円
- 老人の健康診査……1,220千円
- 老人憩の家の増改築など……9,000千円
- 養護老人ホーム……59,016千円
- 高齢者就労対策のために……300千円

（総予算 510,820千円）

親族の扶養を期待 就労は健康のため

老人が、その生活をどのように維持していっているでしょう。

調査によりますと、自分の収入によって生活できる老人（六十五歳以上）は三十一％で、収入源の内訳は事業や勤労によって収入を得ている人が五十二％、年金や恩給のある人は三十六％、財産収入のある人が三十一％となっています。このことは自活能力のある老人の半数が自己の勤労収入をあてにしなければ生活できないことを示しています。

つぎに、生活できない老人は、子供や親戚の扶養を希望する人が大部分の九〇％をしめ、社会保障に期待している人は、わずか十七％にすぎず、このことは扶養の観念が低下し、また老人も扶養への依存度を感覚的に薄めてはいるものの、現実のこととして親族の扶養を期待しているといえるでしょう。

それでは老人の就労について考えるとき、定年制の問題をみなければならないでしょう。

日本の大企業は一〇〇％定年制をもち、中小企業でも五十五％が定年制をしいています。その年齢も企業の規模別によって差がありますが、おおむね五十五歳定年としている企業が五割を越えているのが現実となっています。しかし最近、定年制を延長する企業が増えているようですが、その場合の多くは、いったん退職してから、再雇用の形式ですから賃金も低くまた、昇給もない例が多いといえます。

これも五十五歳定年によって年金の支給開始年齢（六〇歳）までのつなぎといって過言ではないでしょう。

ここで老人にとっての就労の考え方は、前にも触れたように働いている老人の七十六％は自分の収入が家計の大部分か、または家計を援助するためと答えています。

しかし老人の就労に対する意識は家計のためばかりでなく、大きな意味で「健康によい」「働くことが楽しい」「地域社会のため」という調査結果があるように生きがいのある、さらに老人がもっている豊かな経験や知恵を生かせるような就労の場をつくりだすことも社会の責任であると思います。

ホームヘルパー雑感…若返った明治の青年たち

登別市に老人家庭奉仕員が置かれたのは、昭和四十三年五月、社会福祉協議会内に配置されたのが始まりです。

二年後には福祉事務所内に移り、身障ヘルパーを加えて六名になり、現在は八名の家族奉仕員（ホームヘルパー）が体の不自由な方や独居老人の身のまわりのお世話などをしています。

訪問始めの頃のお年寄りは、わずかの心身の変調にも、家庭生活、経済生活とも破たんをきたす事が多く、私たちを必要とし、求めるお年寄りも多かったようです。

最近は福祉行政も進む一方、明治、大正、昭和といく度の激動を忍耐と努力によってくぐりぬけ、今日の文化社会を築いた人たちだけに、「いつまでも若者に甘えてはおられぬ。」と、自主的に企画をたてて、地域との交流を持ち、教養や娯楽、社会活動に参加して、持っている能力を発揮するお年寄りが多くなり、若か若かしくもなってきましたことに感動させられています。

ヘルパー八名は、今日より明日へと、お年寄りの健康を守り、心豊かに暮らせることを願って、真心こめて奉仕に活躍することを誓い合っています。

お年寄りと健康

民生部 保健衛生課
保健婦 竹内芳子

年齢を重ねていくと、だれもが身体の老化が起きてきます。

皮膚のつやがなくなる、髪の毛が白くなる、視力が衰えるなど表面に現われるものとともに身体の内部にもこの現象がでてきます。

その一つとして血管の老化があります。

「年齢は血管にある」といわれるほど、血管の強さがその人の寿命を決めるポイントにもなるといわれています。

血管が老化すると血管の壁にコレステロールがついて高血圧という状態をひき起こします。

市の昭和五十六年度老人健康診査では、三百六十六人受診のうち百六人が高血圧と診断されています。

軽い高血圧の場合も長く続くと徐々に血管が弱くなり弾力を失い硬くなったりして、脳、心臓、腎臓などのだいじな器官の障害が起こっています。

これに対応するために食生活は、①米を大食しない、②塩分は少なく、③植物油は豊富に、④魚は自由に肉はほどほどに、⑤新鮮な野菜海草類は充分に取りましょう。

日常生活では、①十分な睡眠をとる、②便通を整える、③酒とタバコは控えめに、④いらいらしない。これらに注意して、健康な毎日を送りましょう。

敬老年金支給日程表

	午前10：00～12：00		午後 1：00～ 4：00	
	支給会場	支給地区	支給会場	支給地区
9月8日（火）	オロフレ荘	カルルス町	登別温泉公民館	登別温泉町
	老人憩の家 白樺の家	中登別町	登別公民館	登別東町、登別本町、登別港町
	老人憩の家 寿の家	富浦町、幸町	幌別生活館	幌別町、新栄町
	中央公民館	千歳町、中央町、常盤町		
9月9日（水）	老人福祉センター	柏木町、富士町、片倉町、新川町		
	老人憩の家 あかしやの家	大和町、若山町1・2丁目	老人憩の家 桜木の家	桜木町、緑町、青葉町
9月10日（木）	老人憩の家 富久寿の家	富岸町、若山町3・4丁目	鷲別公民館	鷲別町
	老人憩の家 栄楽園	栄町1・2丁目	老人憩の家 旭ケ丘三恵園	美園町
	老人憩の家 共和園	栄町3・4丁目	老人憩の家 優和園	若草町
	千代の台団地集会所	新生町、上鷲別町		
宅配	上登別町、札内町、鉱山町、川上町、来馬町			

敬老の日にちなんで

敬老年金をお渡しします

毎年9月に、お年寄りに敬意をあらわし、あわせて福祉の増進をはかるため、65歳以上のお年寄りに敬老年金を差し上げています。

支給額は次のとおりです。

▽65～69歳…4,000円
▽70～79歳…6,000円
▽80歳以上…12,000円

対象者には、はがきでお知らせしていますが、9月5日をすぎても届かない場合は、ご連絡ください。（社会課社会福祉係▽℡⑤2111内線291）

湖面に映える灯ろう流し

クッタラ湖

〝祖先の霊よ、安らかに〟と、クッタラ湖の灯ろう流しが、八月十九日同湖畔のレークハウス前で行なわれました。

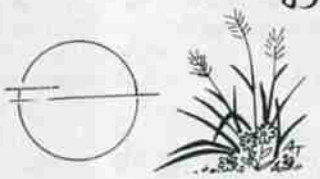
この催しは、登別観光協会が主催して毎年開いているもので、午後六時三十分から登別温泉仏教会による法要の後、湖水に出た約十隻のボートから約四百個の灯ろうが夕やみの湖面に次々と浮かべられました。

この日は、登別温泉町から無料バスも運行され、地域の人や観光客など約三百人が訪れていましたが、魅惑を秘めて漂う灯ろうに、感嘆の声が上がっていました。

また、午後七時二十分からは花火大会が行なわれるなど、楽しいひとときを過ごしていました。

歳時記

お月見



月見というのは、もともと、旧暦八月十五日夜の「中秋の名月」（十五夜）と、同じく九月十三日夜の「あとの名月」をたたえる行事を指します。

中秋――旧暦では七月、八月、九月の三カ月が秋季で、七月を初秋、八月を中秋、九月を晩秋ということから、八月十五日夜の満月が「中秋の名月」といわれます。

「あとの名月」、旧暦九月十三日（新暦十月十日）の〝十三夜〟は、だんだん忘れつつあるようですが、十五夜の月見だけして、十三夜に月見をしないのを片見月といって忌みきらった風習も、いまでは消え去ろうとしているようです。

団子は、東日本では丸いのを、西日本とくに京阪地方では里イモの形にとがらせて作るところが多いといわれます。

団子の数ですが、江戸時代には普通は十二個、うるう年には一個増やして十三個というのが一般的だったようです。いまは、十五夜にちなんで十五個というところもあるようですが、みなさんのお宅ではいかがでしょうか。

日本赤十字社の救急車を配備

登別温泉支署

このほど、日本赤十字社北海道支部から登別市に救急車一台が贈られ、登別温泉支署に配備されました。

この救急車は、今まで登別温泉支署に配備されていた救急車が廃車になり、その代りとして配備されたもので、無線や酸素呼吸装置、医療器機など最新型の器材が装備されています。

贈られた救急車の前後、側面には鮮やかな赤十字マークが入っており、サーチライトを備え、患者二人を搬送できるようになっています。

この救急車の配備により、登別温泉・登別地区の救急体制がさらに強化されました。

郷土史探訪 ㊿

登別市中心の町

中央町

登別市のほぼ中央に位置し、市の行政、経済の中心地域として発展してきた中央町も、歴史の発展的方向からみると、江戸時代は、うっそうとした森林地域で文献上の記録にはでてきません。

中央町が本格的に開拓されるのは、明治二、三年にかけて白石城主片倉家の家臣が、幌別郡の支配を受けて来馬川を中心に約三十二に地域を区分して入植したときからです。その地域は、中央町三・四丁目と富士町二・三丁目の来馬川添いでした。

明治十年代になりますと、さらに五・六・七丁目などの開拓が順次すすめられます。

明治以降、農業を中心として開拓された中央町も、谷地が多く湿地帯で開墾も大変でした。例えば幌別小学校の裏側七丁目附近は、常盤町二・四丁目から流れでる谷地水のため広い低湿地帯でした。

また六丁目の刈田神社前は、これらの谷地水のため「タコ沼」といわれる沼ができ、降水量が少し多いと沼水があふれ中央町一丁目の低地帯に流れこみました。

中央町三丁目は急に低くなった地帯で、大雨が降り海も荒れると幌別川の水がせきとめられて来馬川にも逆流し、三丁目はもちろん新川町一・二丁目附近も水で埋没し、幌別川もわからぬほどになったこともあります。

しかし、このようなかでも比較的霧の発生による塩害が少ない二丁目に於いて、井上藤吉が葉たばこの栽培をして「北海熊」なる商品を売り出したことは、よく知られているところです。

さて、六丁目にある市役所は、昭和三十六年に開基九十年を祝って建設されましたが、その前は、幌別町三丁目の生活館のところにありました。

また同じ六丁目にある幌別小学校は、明治十四年に開校し、今年で百年を迎え、この地方でも最も古い歴史をもつ学校です。現在地に移転したのは明治四十一年ですが、その前は中央町一丁目の本晃寺のところに三十二坪の校舎がありました。

当時は未開の地も多くあり、草深い小路を通学する苦労は大変なものがありました。

市役所、幌別小と並んで六丁目には刈田神社があります。

刈田神社は、前記白石城主片倉主従が、明治三年、幌別に移住したとき旧領刈田郡の刈田峯神社祭祀、日本武尊を祭ったものですが幌別には江戸時代から会所横に建立されていた好見稲荷社がありましたので、明治三年に合祀し、幌別郡開拓の守護神として今日まで続いています。

幌別駅前の千代田生命ビル、こがね幌別店を通り、富士橋の方へ真直に伸びる道路は、旧幌別鉱山軌道の跡です。また幌別駅前から不二屋洋菓子店前を通り、中村薬局、アサヒ堂カメラ店裏を通る道路も、富士町三丁目を過ぎて幌別ダム方向に向っていた川砂利線の跡です。

中央町三・四丁目の中心街が複雑な形態をしているのも、これら昔の幌別の経済をささえた軌道の跡によるものです。

これら軌道跡の道路は、昔の幌別が忘れ去られようとしているなかで、今も昔の面影を少しだけでもとどめている道路でもある訳です。

明治初期、片倉家旧臣の入植地（中央町３・４丁目）

（登別市郷土文化研究会　宮武　伸一記）